

ニュースレター

いりおもての森から



令和4年9月

No 64

浦内川のマン
グロブ林（空撮）

「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録から1年

令和3年7月「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産への登録が決定し1年が経過しました。この間、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関・国際自然保護連合（IUCN）から指摘のあった「観光管理」、「ロードキル対策」、「河川再生」、「森林管理」の四つの要請事項に対し、関

係行政機関・地元関係団体・専門家等で構成されたメンバーにより対応方針が検討されてきました。特に西表島においては「観光管理」について厳しく指摘されており、2020年1月に西表島部会が策定した『持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画』を改定し、『西表島観光管理計画』を策定することとし

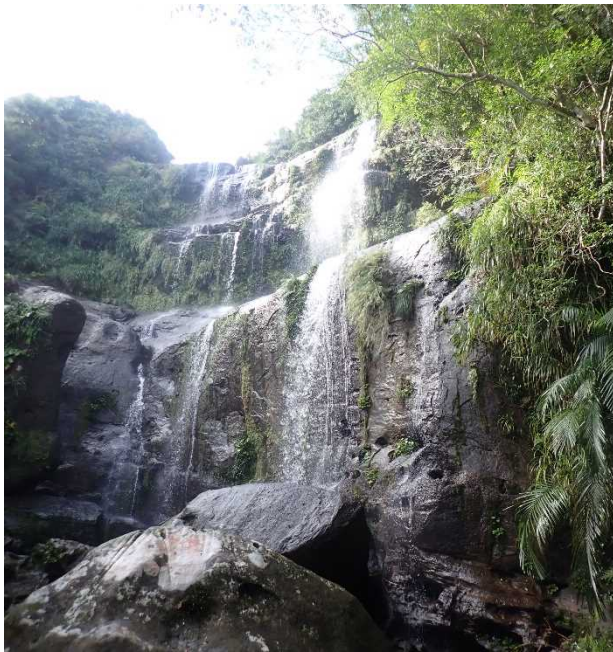
作業が進められています。また、「ロードキル対策」についてもアンドーパスの新規建設、交通実態把握調査など、追加対策の実施又は強化の検討が進められています。今後は、12月1日の世界遺産委員会へのレポート提出に向けてとりまとめがおこなわれることとなります。

経過しましたが、当センターの重点取組事項の一つでもある「情報の発信」について、常日頃から全職員が意識する中で、マンガローブ林の調査状況や森林環境教育支援などをホームページ（トピックス）へ投稿しセンターの存在をアピールすることに努めています。私自身、なかなか思うような記事は書けません

が、「枯れ木も山のにぎわい」精神で毎回表現や文章の構成に頭を悩ませながらパソコンに向かっていきます。今後、台風被害地調査、大原、船浦両中学校の三大行事支援（古見岳、テドウ山登山）など、ハードな業務が目白押しとなっておりますが、無災害で乗り切れるよう職員一丸となって取り組んで参ります（所長下田）。



【サンガラの滝】



【ユツンの三段滝】



【仲間川展望所から望む】



【仲間川のマングロブ林】

楽しみながら西表島の樹木・植物を覚えて下さい

〔西表島の植物誌〕と〔西表島植物かるた〕を配布

当センターでは、森林環境教育の一環として毎年、西表島の小学校新入生に当センターで作成した“西表島の植物誌”を配布しています（転校生にも忘れず配布していますので、西表島の小学生はこの“西表島の植物誌”を全員持っていることとなります）。

今年度も、4月27日（水曜日）に竹富町立大原小学校、古見小学校、上原小学校、白浜小学校の新入生に



【西表島植物かるた】

植物誌を配布しました（校長先生に贈呈）。

さらに、今年度は“西表島植物かるた”が完成したことから、かるた作成にか



【西表島の植物誌】

かる試作品使用アンケート等でご協力いただいた西表島の小学生全員に“西表島植物かるた”もあわせて配布しました。

かるたで遊んで楽しみながら西表島の樹木・植物を覚えてもらい、興味が沸き詳しく知りたいと思った時は、植物誌を見てもらえればと思います。

かるたに掲載した植物の一部には、その植物の方言名も記載していますので、少しでも地域の方言文化の継承に繋がればと感じています。

3年に1度の調査を実施

仲間川のマングローブ林モニタリング調査を実施

西表島には、日本最大の面積を有するマングローブ林が生育し、河岸の安定維

持や生物多様性の維持等の機能のほか、近年は環境学習の場、レクリエーション

西表島の樹木いろは



【街路樹としても見かける】

アカギ
海岸近くの林地や低地などに広く分布し、大木となつている。また、緑化木として道路などにも植えられており、葉は3出複葉で、葉の縁は鋸歯がある。アカギ（赤木）の名前は材の色が茶褐色であることからついたそうです。
（出典…西表島の植物誌）

やエコツーリズム等の観光資源としても重要視される等、マングローブ林は多くの役割を果たしています。当センターは、このようなマングローブ林の保全・保護活動に資することを目的に、マングローブ林の生育状況や生育環境が、どのように変化するかを継続的に調査を行い、これからの隆替を知る手がかりとしてのデータを確保することとしています。

本年度のモニタリング調査は、仲間川（南風見国有林173い林小班）に設定している調査区域が該当し、4月25日（月曜日）に調査木にタグ付けを行い、5月9日（月曜日）～10日（火曜日）にかけて、オヒルギ



【生育状況を調査】

等の生育状況、稚樹の発生状況、光環境（開空度調査による）の変化、地盤高について調査を行いました。来年度は、仲間川のマングローブ林モニタリング調査を行うこととしています。

6月23日の慰霊の日に向けて海岸清掃調査を実施

南風見田海岸忘勿石周辺のビーチクリーンアップ活動に参加

5月15日(日曜日) 14時から八重山地区の海洋環境保全推進活動を行う団体「八重山環境ネットワーク」西表エコプロジェクトの主催で南風見田海岸忘勿石周辺のビーチクリーン活動が開催され、当センター職員3名、沖縄森林管理署大原森林事務所森林官1名が参加しました。

南風見田海岸は西表島東



【集めたゴミをみんなで分別】

部に位置し、近隣にキャンプ場などもあることから、観光客をはじめ地元の方も利用し訪れる人が多い海岸です。

一部は南風見田国有林172林班となっており、当センターの漂流・漂着ゴミの定点観測地点でもあります。当日は、主催である八重山環境ネットワーク西表エコプロジェクトから来月の慰霊の日に向け、忘勿石周辺の清掃活動を行うことが伝えられ、地元スポーツ少



【あんな岩場にもゴミが！】

年団の子供達とその保護者等、総勢66名でビーチクリーン活動を実施。参加者は約2時間、精一杯清掃活動を実施し、ペットボトルだけでゴミ袋(45リットル)8袋分を回収しました。その他に今回は、発砲スチロール、ロープ、魚網が多かったように感じました。

ペットボトルは、西表島の地理的位置から海外(アジア圏)からのものが殆どでしたが、日本製のものもありました。

今回は、3月13日の清掃活動よりも多い、沢山のスポーツ少年団の子供達が参加しており、皆協力して黙々と一生懸命清掃活動を頑張っていました(砂の中に埋まったゴミを子ども達数人で掘り起こしたり、重いゴミや大量に集めたゴミを、ソリを使って二人がかりで運んだりしていました)。

動に参加し毎回思うことですが、参加した子供達が大人になる頃には、南風見田海岸はもとより西表島をはじめ世界中から漂着ゴミがなくなっていることを願うばかりです。

【慰霊の日】

1945年6月23日、太平洋戦争末期、沖縄戦で旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる日で、沖縄



【ゴミはトラックで運搬】

戦等の戦没者を追悼する日として、沖縄県が6月23日を「慰霊の日」として制定している。



【集めたゴミを前に記念撮影】

稚樹の発生も確認

タシロママの生育調査を実施

タシロママの生育調査は4月8日に事前踏査を実施し、5月23日(月曜日)に生育調査を実施しました。当日の天候はあいにくの雨、新聞によると今年の沖縄県の梅雨は例年より雨量が多く、西表島でも例年の2倍以上の雨が降っているとのこと。

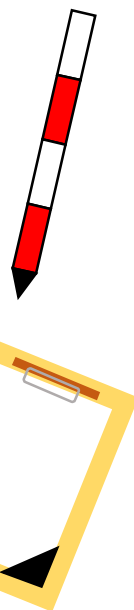


【胸高直径を計測中】

調査ではタシロママの生育状況(生長量)を調べるため樹高と胸高直径を測定。また、稚樹の発生状況を調べるために新しく発生した稚樹の本数とその樹高も調査しました。今回の調査では16本の稚樹が新たに発生していましたが、5年前の

調査と比べると発生本数は減少しており、林内でイノシシの掘り起こし跡が確認されたため、このことなどが影響しているのではないかと考えられます。

今後定期的なタシロママの生育状況を確認していくこととし、次回の調査は令和9年度に行うこととしています。



環境に優しい駆除を指して

ギンネムの駆除試験を実施

ギンネムは「世界の侵略的外来種ワースト100」の1つで、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」によって重点対策外来種に指定されています。西表島では、道路沿いに見られるほか、耕作放棄地や海岸林など足の踏み場がないほど密集したギンネム林がよく見られます。ギンネムが発達

した海岸林は、ギンネムが主要な優占木となり、高木層がほぼ欠如し、樹高が低く、林分密度も低くなっています。

このように、西表島の海岸林等におけるギンネム生育地の拡大・ギンネムの優占化は、防風や防潮などの森林に期待される機能の発揮や生物多様性の観点から、深刻な影響を及ぼしています。

西表島の樹木いろは



【側脈が隆起して目立つ葉】

アオバノキ
山地に生育する常緑の低木です。葉は互生し革質で厚く、表面は光沢があり、裏面は淡緑色で側脈が隆起して目立ち、葉の縁は小さな鋸歯があります。溶液から径約1cmの白い花が咲きます。実は壺状の球形で長さ約6mm、黒く熟します。
(出典：西表島の植物誌)



当センターではこのギンネムを環境にやさしい方法で駆除するため、今年度は大富遊歩道沿いの根元直径約8cm〜15cmのギンネム40本を対象に、食酢及び食塩水を用いた駆除試験を5月24日(火曜日)及び26日(木曜日)に実施しました。食酢を投入するギンネムと食塩水を投入するギンネムを20本ずつ設定し、根元からドリルで6カ所らせん状に穴を開け、それぞれの溶液を投入し、コルク栓でふたをして溶液が漏れないようにしています。今後は試験を実施したギンネムがどのように変化していくかを定期的に観察していくこととしています。



【試験木にドリルで穴を開ける】

今年度も森の巨人たちを調査

「仲間川のサキシマスオウノキ」及び「ウタラ川のオヒルギ」モニタリング調査を実施

6月6日（月曜日）から翌7日（火曜日）にかけて、「仲間川のサキシマスオウノキ」の調査を実施。空は梅雨空のどんより雲で、とても蒸し暑い中での調査となりましたが、樹勢や樹高、幹周り、板根の高さをはじめ、枝張り、光環境、林床植生や着生植物の変化などを計測しました。

また、沖繩地方が梅雨明けとなった6月20日（月曜日）に日差しがとも眩しい中、「ウタラ川のオヒルギ」の調査を実施。ウタラ川の潮位が非常に高い中で、樹勢や樹高、幹周り、光環境、林床植生などを計測しました。

各調査の結果は、昨年とあまり変化はなかったものの、以前から見られる幹に着生したアコウの根が著しく成長していることが確認



【仲間川のサキシマスオウノキ】

されました。なお、昨年度のニューズレター等でお伝えしておりましたタカサゴシロアリの営巣については、以前確認されていた蟻道は確認されず、営巣等は衰退しているのではないかと考えられます。

調査の結果は、オヒルギ樹幹内の腐朽が著しく進んでおり、樹勢が衰退していることと、オキナワアナジャコシヤコ塚周辺が昨年度より高くなっており、オヒルギ周辺の陸地化が進んでいることが確認されました。2本の巨木とも老齢であ

り、樹木の樹勢をはじめ生育環境等を今後も注視していく必要があります。

周辺木への対応等を検討

「船浦のニツパヤシ希少個体群保護林モニタリング調査を実施」

船浦ニツパヤシ希少個体群保護林（上原国有林208は林小班）は自生地の北限として植物地理学上重要なものであり、国指定天然記念物となっています。当センターでは、毎年2回（6月期と11月期）周辺環境の変化等の定期的な調査を実施しています。

6月10日（金曜日）に曇り空の中、光環境（開空度調査）や地盤高、定点撮影等の周辺環境調査と葉につ



【ウタラ川のオヒルギ】

けている古くなったタグの交換及び新葉のタグ付けを実施。

6月24日（金曜日）は6月10日の残りのタグ交換作業及び葉の状態調査を実施しました。天気は快晴、気温は30度を超える暑さの中、胴長を着て調査しますが、調査後の胴長の中は汗でずぶ濡れとなり、まるで大雨に降られた後のようでした。調査結果については昨年度同時期の調査と比較して

葉の先端や半分が枯れている葉（先枯れや半枯れ）が増えているように感じました。

また、午後からは琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設渡辺准教授に現地でも立ち会っていただき、ニツパヤシ周辺の生育しているオヒルギの被圧状況を船浦のニツパヤシは以前、オヒルギやヤエヤマヒルギなどの周辺木がニツパヤシを覆い光環境が悪化し生育状況が悪くなり群落の衰退が危惧されたため、平成17年（2005）3月及び平成19年（2007）3月にオヒルギ等の周辺木の除伐を実施した経緯があります。除伐から15年以上が経ち、当時影響がないものと判断され除伐されなかったオヒルギなどが生長し、ニツパヤシを被圧している状況が確認されました。



【胴長を着て葉の状態調査】

令和4年度の主な取組について 沖縄県と情報を共有

（沖縄県と九州森林管理局及び沖縄森林管理署意見交換会に出席）

7月25日（月曜日）、
「令和4年度沖縄県と九州森林管理局及び沖縄森林管理署意見交換会」がオンラインで開催され、当センターもオプザーバーとして出席しました。

この意見交換会は毎年実施されておりましたが、沖縄県との貴重な情報交換の場ということから沖縄森林管理署だけではなく、西表島をフィールドにしている当センターも今回参加することになりました。

意見交換会では、「沖縄県森林管理課の取組等について」、「沖縄森林管理署並びに九州森林管理局の令和4年度重点取組事項」等の情報提供後、当センターからも職員体制、業務内容及びホームページのトピックスによる情報発信について説明をしました。その後、質疑応答がおこなわれ、九州森林管理局からこれまで未発生であった久米島町において確認された松くい虫の侵入状況や沖縄県から九州森林管理局が取り組んでいる中苗植栽について、「どれ位コストが掛かり増



しになるのか」などの意見等が出されました。
また、沖縄県から森林計画にかかる国有林データの共有について要望があり、九州森林管理局から具体的に申請手続きを行えば共有（提供）可能との返答がなされました。

なお、来年度はオプザーバーという形ではなく、正式な出席者としての立場で出席できるようにすることを期待します。

ゆんたく

▼8月11日は「山の日」だ。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝すること」を趣旨に、2016年（平成28年）から施行された国民の祝日。当日は全国山の日協議会が中心となり、「山の日」全国大会が開催される。2023年（令和5年）の第7回「山の日」全国大会の開催地が沖縄県に決まり、竹富町も大会開催地の1つとなっている▼

西表島には本州にあるような標高1000mを超える山はない。最高峰の古見岳でも標高は469・5m。しかし、標高500mに満たない山々には多くの固有種が存在し、生物多様性が豊かな独自の生態系を形成している。2021年（令和3年）7月に世界自然遺産に登録された▼当センターではマングローブ林の調査や外来種対策などを通じて西表島の森林生態系保全に取り組んでいる▼大きいことを言ってしまうが、この自然を地域の人と一緒に守り、後世につなぐために地域に根ざした国有林という「山」を一歩ずつ着実に登っていききたい（風）



【当センターの業務内容説明】



【オンラインによる意見交換】



【議論に聞き入る職員】

人事異動

転出者

お世話になりました。

令和4年3月31日付

生態系管理指導官 永山 博美（転出先：九州森林管理局）

転入者

よろしくお願ひします。

生態系管理指導官 一口 竜也（前任地：長崎森林管理署）

編集者一言

西表島は日本最大のマングローブ林を有し、日本のマングローブ林の約7割を占めています。

裏表紙：後良川のマングローブ林（空撮）

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

